

学校教育課 経営計画書（総括表）

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H25 年度計画額（単位：千円）		H25 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	教育委員会事業	B	2,027	0	0.7	0.2
2	学校教育管理事業	B	21,373	8	0.8	2.2
3	小学校運営事業	B	78,012	59	0.5	22.1
4	小学校施設管理事業	B	49,146	160	0.7	0.0
5	小学校整備事業	B	7,378	0	0.6	0.1
6	小学校教育振興事業	B	7,766	201	0.4	0.1
7	中学校運営事業	B	39,488	85	0.4	10.1
8	中学校施設管理事業	B	32,736	8	0.7	0.0
9	中学校整備事業	B	1,334	0	0.4	0.0
10	中学校教育振興事業	B	11,063	51	0.4	0.1
11	社本育英事業	B	300	10	0.4	0.1
12	明日の学校づくり施設整備事業	A	0	0	0.0	0.0
合 計			250,623	582	6.0	35.0

■特記事項

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	1
事業名	教育委員会事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	学校の、基本的な運営方針の決定等における中立性、小中学校の学習期間を通じた教育の継続性及び安定性を確保し、また、広く地域住民と連携しながら、子どもの健全な成長発達を目指すことを目的とする。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会定例会 ・教員との懇談会 ・ ・ 		
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会定例会は、議案審議が主となっている。教育委員会として取り組むべき課題を協議する時間を増やすため、議案の約半数を占めていた後援名義使用許可について、平成23年12月から、原則、新規の案件のみを議案とする方法に見直した。 ・従来から、会議の傍聴は可能であるが、会議の公開及び非公開の原則、会議を非公開とする場合の手続きを明記するため、平成24年10月、大口町教育委員会会議規則を一部改正し、併せて、傍聴人の定員、傍聴の手続き等について定めている大口町教育委員会傍聴規則を全体的に見直した。 ・教育委員会定例会では、可能な限り、毎回、テーマを設定し、教育委員会として協議した結果をもとに、生涯教育部内の各課が具体的な施策を進めていくような取組が求められる。 		
平成25年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会で協議するテーマの設定については、大口町の教育のあり方、中央公民館の耐震化工事、図書館のあり方等、生涯教育部の各課の検討事項を取り上げ、部全体の課題を検討するよう改める。 ・学校の現状等を把握するため、定例会を学校で開催することとし、平成23年度は大口北小学校及び大口中学校、平成24年度は大口南小学校及び大口西小学校で開催した。平成25年度についても、引き続き、年数回は学校で開催する。 ・町長部局との連携を強めるため、町長と教育委員の懇談会を開催する。 ・学校現場と教育委員会との距離を縮めるため、管理職員や若手教員と教育委員の懇談会を開催する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4 ～ 3	定例会（毎月1回開催） * 10月臨時会 委員長及び委員長職務代理者の選任（任期は1年間）

□3年間の目標

目標	.					
	.					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	.
H27 年度	.

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	1,896	2,131	2,027
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.6	0.6	0.7
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.2
	計	人工	0.7	0.7	0.9

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 学校の状況等を把握するため、例年2校を訪問していたが、今年度は全ての小中学校において、各1回ずつ定例会を開催し、学校長などから学校が抱える課題等を直接、教育委員が聞く機会を設けた。
- ・ 平成23年度から実施している「大口町の教育を考える会」を開催し、今年度は、小中学校と家庭の連携、あり方をテーマに意見交換会を行った。

■ 評価

- ・ 小中学校において各1回ずつではあったものの、学校長などから教育委員が学校の状況等を聞くということは学校現場、教育委員会にとって非常に有意義なことではないかと考える。
- ・ 大口町の教育を考える会は、各学校PTA、学校評議員、民生・児童委員、幼稚園・保育園関係者、教育委員会外部評価委員、小中学校長、教育委員から貴重な意見をいただき、各家庭に子育ての指標となるリーフレット、「家庭での子育て10か条」の原稿を作成した。
今後はPTAに配付、公共施設に掲示し、広く啓発するとともに、いかに実践してもらおうか働きかけることが必要になる。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	2
事業名	学校教育管理事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学校、家庭、地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりと授業改革を目指すとともに、教員の資質向上を図る。 ・確かな学力の定着と豊かな心の育成、また、健康や体力などすべてにおいて調和のとれた子どもを育むため、子ども一人ひとりの個性を伸ばす教育を推進する。 		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適応指導教室 ・ 就学時健康診断 ・ 教職員等健康診断 ・ 私立高等学校等授業料補助 		
現在における 経過又は課題	<p>適応指導教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教室は、学校復帰が目標であり、在籍者数はほぼ横ばいで推移しているが、個々の状況に応じて取り組んでいる。保護者、学校、教室間の連絡調整を密にする必要がある他、入室には至らないものの不登校の恐れがある児童生徒がいる。 		
平成 25 年度 の目標又は 改善策	<p>適応指導教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの学校復帰を第一とし、保護者、学校、教室間の連絡調整の仕方を今一度、再検証し、具体案を決定、実施する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	【適応指導教室】
4	平成 25 年度経営案の作成、連絡会議
7	保護者会
9	連絡会議
12	保護者会
3	平成 26 年度経営案の作成、連絡会議

□3 年間の目標

目標	.					
	.					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2 年後、3 年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	.
	.
H27 年度	.
	.

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	22,400	20,528	21,373
(内特定財源)		千円	1,950	8	8
人工	職員	人工	0.5	0.5	0.8
	臨時職員	人工	2.1	2.2	2.2
	計	人工	2.6	2.7	3.0

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
学校基本調査事務市町村交付金	7	
図面、用紙等売払収入	1	
合計	8	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

【適応指導教室】

児童生徒の学校復帰する力の育成、基礎的な学力の定着と集団適応能力の育成、基本的な生活習慣の定着を目標に、主として次の取組みを行った。

①学習指導

各児童生徒の現状と実態を踏まえ、週間予定表に基礎学習の時間を系統的に設定し、教材教具を活用しながら、すべての学習の基本となる国語及び算数（数学）の基礎学力の定着を図った。

②集団適応指導

保護者にも参加を呼びかけながら、スポーツ、ゲーム、校外学習、料理教室等を実施し、他の人と関わり合う機会と場の提供を設定することで、外出や多人数での行動に対する恐怖感の克服を目指した。

③学校行事への参加

児童生徒の気持ちに配慮し、無理のない範囲で、在籍校の行事への参加、興味関心のある授業や活動に参加させ、適応能力の向上につなげた。

④関係機関等との連携

適応指導教室、在籍校、保護者及び教育委員会が、各々の役割を共通理解して連携し、児童生徒の支援にあたった。

■ 評価

【適応指導教室】

平成22年度から年間計画に位置づけた在籍校との連絡会議を3回（5月、9月、3月）、学習や生活の状況、現況や今後の見通しの確認のための保護者会を随時実施し、関係者の考え方、情報を共有することで、各児童生徒に差はあるが、学校復帰に向けた支援にあたることができ、連携を深めることができた。また一部の町部局や団体等の協力により、調理実習や保育実習等、学習以外の体験の場を得ることができた。指導員の熱意ある指導や、学校の強い支援、生徒や保護者の努力の結果として、平成25年度末をもって2名が退室し、平成26年度より学校復帰することができた。

児童生徒の抱える問題や状況が違うため、目標や支援の設定が難しい面があるが、自らの活動日程を立てるなど、能動的に活動できるよう促すとともに、学校復帰に向けた意識づけを支援し続ける必要がある。そのためにも、今後とも関係機関等との連携強化に努める。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部学校教育課	No.	3
事業名	小学校運営事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	学校・家庭・地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりや授業改革をめざした教員の資質向上を図り、学校教育の目的を達成するために、適切かつ効果的に教育事務を推進する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育調査、統計、広報等 ・教科書、教材購入 ・児童の健康診断 ・各種検査・テスト <ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞会 ・スクールバス運行 ・英語指導助手講師派遣 		
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、各学校の特色を活かした活動を進めるとともに、学級を基盤とした児童の豊かな心を育む教育活動を進めている。 ・教育の多様化に対応するため、学校施設、設備等の教育環境や、人的資源等の有効活用を一層研究し、児童の意欲を喚起する学習指導の推進、道徳の授業を重視した豊かな心の育成に取り組む必要がある。 		
平成25年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の育成を図るとともに、教職員に対する各種研修を通じ、学校施設、設備等の教育環境や、人的資源等を有効活用した教職員の創意工夫と授業力の向上を図る。 ・各学校において、これまでの経過で得た成果、課題等をもとに学校経営計画を策定し、各学校の特色を活かした、地域に根ざした学校づくりとして、独自の教育活動の充実を更に図る。 ・第26回中部地区小学校道徳教育研究大会（愛知大会）及び第51回愛知県道徳教育研究大会（大口大会）が、平成25年11月1日（金）、大口西小学校及び大口中学校で開催されるのを機に、道徳教育の推進に向けた支援を行う。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	目標の設定
10	前期の評価・検証、後期へ向けての活動内容の確認
3	後期の評価・検証、次年度へ向けての課題、改善策の確認
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動を基盤とした教育活動を実施し、その都度、問題点の把握と情報共有を図り、改善策を検討する。 ・児童一人ひとりに学習意欲を持たせ、基礎学力の向上を図ることで、自ら学ぶ姿勢を育む。

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	81,872	77,757	78,012
(内特定財源)		千円	700	0	59
人工	職員	人工	0.3	0.3	0.5
	臨時職員	人工	21.5	22.1	22.1
	計	人工	21.8	22.4	22.6

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
夢をはぐくむあいち・モノづくり体験事業委託金	59	夢をはぐくむあいち・モノづくり体験事業委託料
合 計	59	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

- ・平成 21 年度学校情報通信技術環境整備事業費補助金の交付決定を受けて導入した大口町立小中学校教育ネットワークコンピューター式等のリプレイスに係る経費を、平成 26 年度当初予算に計上する必要がある。

■目標又は改善策に対する取組内容

学校経営

各小学校は、児童の育成のための教育活動を進めるため、次のとおり教育目標を掲げ、学校経営を行った。また、学校教育課は各小学校の特色ある学校づくりを支援し、学校のより一層の活性化を図った。

【大口南小学校】人間尊重の精神を基調に、夢や希望をもつ心豊かな児童の育成（「明るく思いやりのある子」「よく考え進んで学習する子」「健康でたくましい子」）を目指した。

【大口北小学校】児童が生涯にわたり、人間として成長を続けていく基盤となる力を養うとともに、知・徳・体（「よく考える子」「きまり正しい子」「たくましい子」）の調和のある人間形成を図った。

【大口西小学校】「自立する子（自分を大切に生きていく子）」の具現化に向け、「三つの大切（自分の考え、友だち、心と体）」「三つの願い（明るい学校（あいさつ）、きれいな学校（清掃）、うるおいのある学校（環境）」「五つの信条（教師の姿としての「共感」「実践」「創造」「研修」「信頼・尊敬）」を意識して教育を実践した。

学校教育課

学校教育課による小学校運営事業では、「生涯学習の基礎・基本を身に付けるための学校教育の充実」「児童の安全・安心を優先した教育環境の整備」「地域全体で子どもを育てる環境づくり」のため、各小学校の学校経営を進める手だてとして、主に次の事業を実施した。

【少人数指導講師の派遣】

児童の状況に応じた授業を行い、基礎・基本の確実な定着を行った。

【外国語活動指導助手派遣】

新学習指導要領での外国語活動を踏まえ、英語によるコミュニケーション能力の素地づくりを進めた。

【学校支援員の配置】

学校全体の支援としての配置を継続し、運用した。

■評価

学校経営

学校経営の一環として、大口南小学校では「図書館教育・読書指導を通じた教育活動」、大口北小学校では「みどりと環境から学ぶ活動」、大口西小学校では「ビオトープを活用した体験活動」を継続しており、地域住民の協力を交えた活動が醸成されている。引き続き、地域に溶け込んだ学校経営を目指し、地域で子どもを育成する仕組みを整えていく。

学校教育課

【少人数指導等授業】

複数の指導者により各々の集団を指導する少人数指導を実施するため、各小学校に1名配置した。複数の指導者を配置し、児童各々の習熟度に応じた授業を行い、基礎・基本の確実な定着や発展的な学習を行うことができた。少人数指導は、担任と指導員が連携し、児童の理解度を高める指導法の一つである。担任は授業に当たり、その準備段階で指導員と十分な打合せを重ねる必要があり、児童の学力向上という目標を達成するため、担任、指導員双方が、当該指導法を活用する力を養うことが求められる。

【外国語活動指導助手派遣】

小学校では、国際理解への基礎づくりとして外国文化への興味・関心を高めることができている。今後も引き続き、学級担任と英語指導助手が役割分担する中で、限られた授業時間を有効に活用し、将来の中学校での授業を見据え、児童の英語に対する興味、関心を高めていく必要がある。

【学校支援員の配置】

平成22年度から、低学年の学級運営のための配置として実施してきたが、今年度からはよりきめ細かい学校運営に対応するため、学校の裁量で運用できるようにした。このため、柔軟で幅広い対応が可能となった。

近年、特別支援学級のほか、通常学級にも学習障害、注意欠陥、多動性障害を持つ児童が増加傾向にある。また、アレルギーや、身体に疾患をもつ個別事情を抱えた児童や、円滑な学級運営に対する対応も必要であることから、平成26年度からは、新1年生の学級数+1名とし、増員することとした。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	4
事業名	小学校施設管理事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	児童が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所であるよう、学校施設の維持管理、整備を行う。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の維持管理 ・ 教具、その他の設備の修繕 ・ ・ 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大口南小学校は平成24年度から新校舎となったため、大口北小学校、大口中学校と同様に一部を総合管理とし、適切な時期に適切な業務を計画的に実施している。 ・ 大口西小学校については、施設老朽化のため、修繕を要する箇所が増加してきているため、屋上防水、内装、設備など適切かつ計画的に行う必要がある。 		
平成25年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大口南小学校の施設管理については、プール施設が完成するため、プール設備の維持、点検項目も総合管理とし、異常時に即時対応可能な体制とする。 ・ 大口西小学校については、施設、設備の老朽化に伴い学校運営に支障となっている、電話設備、遊具、体育館空調設備について修繕を実施する。 ・ 消防法改正により消火器更新が必要となったため、順次更新していく。 ・ 理科実験薬剤、粗大ごみなど不要備品が蓄積されてきたため、今後順次適切に処分する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	年間契約となる各施設の保守点検契約（消火器更新含む）
5	大口西小学校 校内電話設備修繕、タイヤ遊具修繕、体育館空調機修繕 保健所プール施設検査及び水質検査による指導改善等
6.7	消防設備点検、運動遊具点検結果による修繕等（必要な場合）
11.12	同上
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修繕は、学校で要否判断のうえ起案した後、学校教育課で再判断してから施行する。

□3年間の目標

目標	.					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	.
H27 年度	.

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	35,693	45,142	49,146
(内特定財源)		千円	45	325	160
人工	職員	人工	0.5	0.5	0.7
	臨時職員	人工	0.0	0.0	0.0
	計	人工	0.5	0.5	0.7

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
行政財産目的外使用料	47	
太陽光発電電力売払収入	113	
合計	160	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
修繕料(西小G)	2,400	2,400	学校運営に支障となる経年劣化による不具合について修繕を実施する。
委託料 冷暖房機(南小G)	483	403	昨年度は新設後の補償期間であったため今年度より保守点検委託を実施する。
樹木選定等委託料(南小G)	300	300	全面改築工事を実施していたため平成 25 年度から予算計上した。平成 25 年度は芝、除草、消毒のみ実施予定。

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

大口南小学校の施設管理については、平成24年度に完成したプール設備の維持、点検項目も含め、総合管理とした。異常時に即時対応可能な体制とした。

大口西小学校については、施設、設備の老朽化に伴い学校運営に支障となっている、電話設備、遊具、体育館空調設備の修繕を実施した。

消防法改正により必要となった消火器の更新を行った。

不要となった理科実験薬剤、粗大ごみを適切に処分した。

■評価

大口南小学校の総合管理委託、西小学校の各修繕について、当初予定どおり実施することができた。また、順次更新を行ってきた消火器については今年度で完了した。

南小学校、北小学校校舎については、新しい施設であるため修繕等は少なく適切に維持管理できているが、西小学校については老朽化が進んでいるため、児童の安全を最優先に計画的・効率的な維持管理に努める必要がある。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	5
事業名	小学校整備事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯教育の推進
目的	児童が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所とするため、整備する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設整備 ・ 教具、その他施設整備 ・ ・ 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校舎の耐震化については、平成21年度の大口北小学校移転に伴う耐震化及び増改築工事に続き、平成22年度の大口西小学校耐震補強工事、平成22年度からの大口南小学校新築工事で全小学校が完結した。 ・ 平成22年度落雷により大きな被害を受けたため、平成23年度に大口北小学校、大口西小学校について雷害対策工事を実施した。大口南小学校については、全面改築に併せて対策工事を実施した。 ・ 今後は、東日本大震災を契機に、建物の構造体の耐震化だけではなく、天井材、内装材、窓ガラスの落下等、いわゆる非構造部材の現状把握と対策が求められている。平成24年度は、大口北小学校と大口西小学校の教室と廊下の間仕切りガラスについて、飛散防止フィルムの貼り付け工事を実施した。 		
平成25年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非構造部材の現状把握調査を実施し、今後の工事の進め方を検討する。 ・ 大口北小学校について、車椅子を常時使用する児童の移動、避難路確保のため運動場へのスロープ設置工事を実施する。 ・ 大口北小学校の屋内運動場の雨漏り及びプール洗眼水道の漏水について、対策工事を実施する。 ・ 大口西小学校については、児童数の洋式便器利用に対して数が不足しているため、和便器を洋式化する工事を実施する。 ・ 大口西小学校のろ過機については、老朽化が著しいため、塗装及び本来の機能を回復するための工事を実施する。 ・ 大口西小学校配膳室については、雨漏りがあり、児童の給食を扱う場所であるため、屋上防水工事を実施する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4～	非構造部材耐震調査委託業務発注
5	北小学校 運動場階段スロープ設置工事、体育館外部時計撤去工事、屋内運動場東面防水工事、 プール洗眼水道配管工事発注
	西小学校 洋式便所設置工事、プールろ過器改修工事、配膳室屋上防水工事発注

□3年間の目標

目標	.					
	.					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	.
	.
H27 年度	.
	.

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	6,638	986	7,378
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.4	0.4	0.6
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.1
	計	人工	0.5	0.5	0.7

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
委託料	2,478	2,478	非構造部材耐震調査委託
工事費	4,900	4,900	北小学校 運動場階段スロープ設置工事 体育館外部時計撤去工事 屋内運動場東面防水工事 プール洗眼水道配管工事 西小学校 洋式便所設置工事 ろ過機改修工事 配膳室屋上防水工事

■特記事項

- ・非構造部材の耐震化については、直営で目視程度点検作業を終えたところであるが、平成25年度に専門家による調査を実施し、今後、具体的な耐震化を検討する必要がある。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

非構造部材の耐震化については、専門家による調査を実施し、対策工事の設計委託業務を発注した。大口北小学校については、スロープ設置工事及び屋内運動場の雨漏り、プール洗眼水道の漏水対策工事を実施した。

大口西小学校については、和便器を洋式化する工事及びろ過機改修、配膳室の屋上防水工事を実施した。

■ 評価

非構造部材の耐震化については、天井裏、外壁などの隠ぺい部、高所の調査を委託発注し、内壁、設備機器、収納棚などの目視可能か所については職員で実施した。

対策工事は、大規模空間（屋内運動場等で天井高さ6m以上、天井面積200㎡以上）については、平成27年度までに完了する目標が文科省から示されており、また、児童生徒の安全を早急に確保する必要があることから、該当施設である大口北小学校屋内運動場については、耐震設計委託業務を補正予算対応により早期発注し、平成26年度に国庫補助金の状況もみながら対策工事を実施することとした。

なお、大規模空間以外については、今後、体育施設、保育園施設と併せ、全町的に工事計画を作成する必要がある。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	6
事業名	小学校教育振興事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	<p>学校教育は、地方分権型社会への移行とそれに伴う規制緩和の中で、生涯学習の基礎を築く場としての使命を負っているが、本事業により、地域に根ざした特色ある学校教育の実現のため、子どもたちを取り巻く安全な環境づくり、将来を見据えた活力に溢れる学校づくり等、学校における様々な教育課題にこたえることを目的とする。</p> <p>また、今後の地域づくりと一体となった基本構想の一層の具体化を進めるとともに、生涯にわたって学び続ける人を育てることを目的とした生涯学習社会の構築を目的とする。</p>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 副読本、教材の購入 ・ 教育調査、統計、広報等 ・ 児童の就学のための援助 ・ クラブ活動への援助 		
現在における 経過又は課題	<p>副読本、教材の購入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の振興及び保護者の負担軽減のため、副読本等の現物支給やクラブ活動に代表される、体育的・文化的活動への支援を実施している。 <p>児童の就学のための援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要保護及び準要保護児童就学援助費並びに特別支援教育就学奨励費では、対象要件が法律等によるものが多いが、当該事業の基準を満たしている保護者への支援を実施してきた。 ・ 特別支援教育就学奨励については、障がいにより町立小学校に就学していない児童の保護者への支援として、県立特別支援学校に在籍する児童も対象とする対応が必要である。学校給食費については、現在、大口町立学校給食費の2分の1を町が補助しているが、平成24年度から、障がいにより町立小学校に就学していない児童のうち、県立特別支援学校に在籍する児童への就学奨励として、町立小学校在籍児童と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）を補助する制度を施行した。 		
平成25年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の就学のための援助、特別支援教育就学奨励については、教育振興と保護者の負担軽減の観点から、継続実施する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要保護及び準要保護児童就学援助費申請事務 ・要保護及び準要保護児童就学援助費支払事務 ・特別支援教育就学奨励費申請事務 ・特別支援教育就学奨励費支払事務 ・特別支援学校児童生徒給食費補助金申請事務 ・特別支援学校児童生徒給食費補助金交付事務

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	7,500	8,114	7,766
(内特定財源)		千円	160	200	201
人工	職員	人工	0.3	0.3	0.4
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.1
	計	人工	0.4	0.4	0.5

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
特別支援教育就学奨励費補助金	200	
合計	200	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

就学のための環境の整備を図ることを目的とし、経済的理由により就学困難と認められる児童の保護者に対して、通学用品費、新入学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費等の援助を行った。

障がいにより町立小学校に就学していない児童のうち、県立特別支援学校に在籍する児童への就学奨励として、町立小学校在籍児童と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）の補助を実施した。

■ 評価

義務教育に係る教育費負担の軽減を図るため、対象となった保護者に対し、就学援助を行った。

児童扶養手当の受給によるものが就学援助申請の主な事由である。また、生活困窮による申請も見受けられるようになっているのが現状である。しかし、給食費、学年費等の未納が生じたことによる学校での聞き取りにより、生活困窮が発覚する事例もある。

児童扶養手当を受給する世帯が年々増加し、今後も就学援助費支給認定児童生徒の増加が予想されるため、援助の制度を継続する必要がある。また、対象世帯の把握については、学期ごとに学校からの情報提供を依頼し、適切に対応する。

県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）を補助する制度については、計画どおり実施できた。次年度についても継続実施していく。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	7
事業名	中学校運営事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	学校・家庭・地域社会の連携のもと、開かれた学校づくりや授業改革をめざした教員の資質向上を図り、学校教育の目的を達成するために、適切かつ効果的に教育事務を推進する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育調査、統計、広報等 ・教科書、教材購入 ・生徒の健康診断 ・各種検査・テスト 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の多様化に対応するため、教科センター方式を導入した教育活動を進める一方で、自治意識と自浄能力を育むため、学級を基盤とした学年（横）とブロック（縦）の活動を進めている。 ・学校施設、設備等の教育環境や人的資源等の有効活用を一層研究し、生徒の意欲を喚起する学習指導の推進やブロック活動を通じた全体指導体制の確立、道徳の授業を重視した豊かな心の育成、地域に生きる者として、地域とともに歩む体制づくりに取り組む必要がある。 		
平成 25 年度 の目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導と生徒指導との関連を念頭に置きつつ、学年の枠を超えたブロック活動を核に生徒の育成を図るとともに、教職員に対する各種研修を通じ、学校施設、設備等の教育環境や、人的資源等を有効活用した教職員の創意工夫と授業力の向上を図る。 ・これまでの経過で得た成果、課題等をもとに学校経営計画を策定し、教科センター方式やブロック活動を活かした、地域に根ざした学校づくりとして、独自の教育活動の充実を更に図る。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	全校生徒によるブロック宿泊研修、目標の設定。
10	前期の評価、後期へ向けての活動内容検討。
3	後期の評価、次年度へ向けての課題、改善策の検討。
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科センター方式やブロック活動を通じて、学級活動を基盤とした学年やブロック活動等の教育活動を実施し、その都度、問題点の把握と情報共有を図り、改善策を検討する。 ・生徒一人ひとりに学習意欲を持たせ、基礎学力の向上を図ることで、自ら学ぶ姿勢を育む。

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	37,468	42,141	39,488
(内特定財源)		千円	140	140	85
人工	職員	人工	0.3	0.3	0.4
	臨時職員	人工	9.8	10.1	10.1
	計	人工	10.1	10.4	10.5

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
あいち・出会いと体験の道場事業委託金	85	あいち・出会いと体験の道場推進事業委託料
合 計	85	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
教科書改訂 (10-3-1 (3) 11-1-4)	0	△3,470	新学習指導要領の全面実施のため平成 24 年度の予算にて対応した。

■特記事項

- ・平成 19 年度に、平成 20 年 4 月の統廃合を伴う中学校開校に向け整備した中学校サーバ等の再構築や、平成 21 年度学校情報通信技術環境整備事業費補助金の交付決定を受けて導入した大口町立小中学校教育ネットワークコンピューター式等のリプレイスに係る経費を、それぞれ平成 24 年度、平成 26 年度当初予算に計上する必要がある。

■目標又は改善策に対する取組内容

学校経営

大口中学校は、生徒の育成のための教育活動を進めるため、次のとおり目標を掲げ、学校経営を行った。

【教育目標】豊かな心とたくましい体をもち、生涯にわたって自ら学び続ける生徒を育成する

【生徒実践目標】自ら学び鍛え 共に夢と友情を育む

【経営方針】教職員の共通理解のもと、各自の資質と指導力を高め、全教職員で全生徒を育てる。

【重点目標】生徒の意欲を喚起する学習指導の推進、全職員で全生徒を育てる指導体制の確立、人を大切に作る心の育成、地域に支えられ、地域と共に歩む体制の確立

学校教育課

学校教育課による中学校運営事業では、「生涯学習の基礎・基本を身に付けるための学校教育の充実」「生徒の安全・安心を優先した教育環境の整備」「地域全体で子どもを育てる環境づくり」のため、大口中学校の学校経営を進める手だてとして、主に次の事業を実施した。

【チームティーチング授業の臨時講師派遣】

基礎・基本の確実な定着、発展的な学習を行うため、生徒の状況に応じた授業を行い、生徒一人ひとりの力を伸ばす教育の充実に努めた。

【英語指導助手派遣】

英語教育の充実を図るため、英語指導助手を派遣し、教諭の指示の下、発音、会話等の指導を行った。

■評価

学校経営

教員と生徒による教科ラウンジの有効な活用、学級を基盤にした学年（横）、ブロック（縦）の活動等、毎年度、試行錯誤しながらも、着実に独自の学校運営を構築している。引き続き、生徒の育成を第一に、地域と関わりあいながら学校経営を進めていく必要がある。

学校教育課

【チームティーチング授業の臨時講師派遣】

特定の教科で、生徒の状況に応じて個別指導する等、先生とで役割分担し進めるため、大口中学校に3名配置した。複数の指導者を配置し、生徒各々の習熟度に応じた授業を行い、基礎・基本の確実な定着や発展的な学習を行うことができた。チームティーチングは、担任と臨時講師が連携し、生徒の理解度を高める指導法の一つである。担任は授業に当たり、その準備段階で臨時講師と十分な打合せを重ねる必要があり、生徒の学力向上という目標を達成するため、担任、臨時講師双方が、当該指導法を活用する力を養うことが求められる。

【英語指導助手派遣】

中学校では、英語の正しい発音を学ぶために指導助手を派遣しているが、英語を母国語としている指導助手の発音を生徒が直接聞くことは、外国語を耳で聞いて理解する力を養っている。

今後も、平成24年度から完全実施された新学習指導要領に対応しながら、教科担任と指導助手が、授業展開の事前打合せを十分に行い、生徒に生きた英語力を身につけさせる努力が必要である。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	8
事業名	中学校施設管理事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	生徒が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設が安全で安心な場所であるよう、学校施設の維持管理、整備を行う		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設の維持管理 ・ 教具、その他設備の修繕 ・ ・ 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成20年4月の開校以来5年が経過しているが、校舎及び設備の管理については、総合管理としているため、適切な時期に適切な業務を計画的に実施している。 ・ 新校舎のため、竣工後2年は施工者による修補等に対応したものもあるが、天災等、施工者原因によらない修繕や、従来から使用している備品の修繕、或いは、定期的なメンテナンス工事（施設整備事業）が今後増加するため、計画的な施行が必要となる。 ・ 樹木管理については、芝、除草業務を教員、地域ボランティアで施行してきたが、負担が大きく、継続的な対応が困難となってきた。 		
平成25年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芝、除草業務については、教員の負担を考慮し、年2回委託業務として発注する。 ・ 理科実験薬剤、粗大ごみなど不要備品が蓄積されてきたため、今後順次適切に処分する。 ・ 平成23年度バスケットボールのルール改正に伴い、コートラインの引き直し修繕を実施する。 ・ 音楽室に西日が入り、授業に支障があるためカーテン取替え修繕を実施する。 ・ 屋外トイレの井水使用量を計測する装置が故障し、装置不具合の調査、修繕に費用を要することが想定されるため、屋外トイレ外部にメーターを設置して対応する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	年間契約となる各施設設備の保守点検契約
5	保健所プール施設検査及び水質検査による指導改善等 屋内運動場バスケットボールコートライン修繕、音楽室カーテン取替修繕、井水メーター修繕、膨張タンク漏水修繕
6.7	消防設備点検、運動遊具点検結果による修繕等（必要な場合）
11.12	同上（同上）
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修繕は、学校で要否判断のうえ起案した後、学校教育課で再判断してから施行する。

□3年間の目標

項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	28,905	30,802	32,736
(内特定財源)		千円	12	12	8
人工	職員	人工	0.5	0.5	0.7
	臨時職員	人工	0.0	0.0	0.0
	計	人工	0.5	0.5	0.7

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
行政財産目的外使用料	8	
合計	8	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
修繕料	1,100	1,100	屋内運動場バスケットボールコートライン修繕 音楽室カーテン取替修繕 井水メーター修繕 膨張タンク漏水修繕
樹木等選定委託料	3,300	300	年2回の芝、除草管理を実施することとしたため。

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

樹木剪定委託業務については、芝、除草管理を年2回含め実施した。

不要となった理科実験薬剤、粗大ごみを適切に処分した。

バスケットボールのルール改正に伴うコートラインの引き直し、音楽室のカーテン取替え修繕、屋外トイレの外部にメーター設置を実施した。

9月4日夕方の落雷により、照明、エレベーター、井水ろ過機、防犯カメラ、スプリンクラーに被害があったため、復旧修繕を実施した。

■ 評価

樹木剪定、理科実験薬剤、粗大ごみの処分、各修繕について当初予定どおり実施することができた。今後も計画的な保守点検を実施し、適切な維持管理に務める必要がある。

照明設備は2年連続落雷被害にあったため、平成26年度対策工事を実施する。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	9
事業名	中学校整備事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯教育
目的	生徒が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所とするため、整備する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設整備 ・ 教具、その他の施設整備 ・ ・ 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の建設から現在までの間、落雷等、想定していなかった施設被害があり、それらの復旧対応と、平成23年度には対策工事費を実施した。 ・ 建設から5年が経過しており、維持管理する上で、校舎の定期的なメンテナンス工事が必要になり、平成24年度に校舎の外部木製ルーバー等の点検、補修、塗装工事を実施した。 ・ 今後は、東日本大震災を契機に、建物の構造体の耐震化だけではなく、天井材、内装材、窓ガラスの落下等、いわゆる非構造部材の現状把握と対策が求められている。 		
平成25年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非構造部材の現状把握調査を実施し、今後の工事の進め方を検討する。 ・ 校舎の外部木製ルーバーは、平成24年度に調査した結果、方角による紫外線、人の接触等による劣化状況に違いがあったため、今後は、南・西面については7年、北面については10年に1回塗装、ナットの緩みの点検工事を実施し、生徒の安全安心を担保できるよう計画的に維持管理する。 ・ 開校後、各教科の教材、生徒の作品掲示用に掲示板を増設し充実を図ってきたが、ブロック活動のための掲示がないため、生徒自らが書き込み、生徒間での連絡、調整のための書き込みができるホワイトボードを壁面に設置する工事を実施する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4~	大口中学校校舎掲示板設置工事発注
5	非構造部材耐震調査委託業務発注

□3年間の目標

目標	・ ・					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	・ ・
H27 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	2,025	18,204	1,334
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0.2	0.2	0.4
	臨時職員	人工	0.0	0.0	0.0
	計	人工	0.2	0.2	0.4

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
委託料	1,082	1,082	非構造部材耐震調査委託
工事費	252	△17,952	大口中学校校舎掲示板設置工事

■特記事項

- ・非構造部材の耐震化については、直営で目視程度点検作業を終えたところであるが、平成25年度に専門家による調査を実施し、今後、具体的な耐震化を検討する必要がある。
- ・開校後15年経過の平成35年には、防水工事を想定(防水工事保証10年)している。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

非構造部材の耐震化については、専門家による調査を実施し、対策工事の設計委託業務を発注した。ブロック活動のための掲示板、ホワイトボード設置工事を実施した。

■ 評価

非構造部材の耐震化については、天井裏、外壁などの隠ぺい部、高所の調査を委託発注し、内壁、設備機器、収納棚などの目視可能か所については職員で実施した。

対策工事は、大規模空間（屋内運動場等で天井高さ6m以上、天井面積200㎡以上）については、平成27年度までに完了する目標が文科省から示されており、また、児童生徒の安全を早急に確保する必要があることから、該当施設である大口中学校の校舎ランチルーム及び屋内運動場については、耐震設計委託業務を補正予算対応により早期発注し、平成26年度に国庫補助金の状況もみながら対策工事を実施することとした。

なお、大規模空間以外については、今後、体育施設、保育園施設と併せ、全町的に工事計画を作成する必要がある。

ブロック活動のための掲示板、ホワイトボードについては、当初予定どおり実施し、生徒の自主活動のための環境を整備することができた。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	10
事業名	中学校教育振興事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	<p>学校教育は、地方分権型社会への移行とそれに伴う規制緩和の中で、生涯学習の基礎を築く場としての使命を負っているが、本事業により、地域に根ざした特色ある学校教育の実現のため、子どもたちを取り巻く安全な環境づくり、将来を見据えた活力に溢れる学校づくり等、学校における様々な教育課題に応えることを目的とする。</p> <p>また、今後の地域づくりと一体となった基本構想の一層の具体化を進めるとともに、生涯にわたって学び続ける人を育てることを目的とした生涯学習社会の構築を目的とする。</p>		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 副読本、教材の購入 ・ 教育調査、統計、広報等 ・ 生徒の就学のための援助 ・ 部活動への援助 		
現在における 経過又は課題	<p>副読本、教材の購入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の振興及び保護者の負担軽減のため、副読本等の現物支給やクラブ活動に代表される、体育的・文化的活動への支援、ブロック宿泊研修への参加負担金の補填をしている。 <p>児童の就学のための援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要保護及び準要保護児童就学援助費並びに特別支援教育就学奨励費では、対象要件が法律等によるものが多いが、当該事業の基準を満たしている保護者への支援を実施してきた。 ・ 特別支援教育就学奨励については、障がいにより町立小学校に就学していない児童の保護者への支援として、県立特別支援学校に在籍する児童も対象とする対応が必要である。学校給食費については、現在、大口町立学校給食費の2分の1を町が補助しているが、平成24年度から、障がいにより町立小学校に就学していない児童のうち、県立特別支援学校に在籍する児童への就学奨励として、町立小学校在籍児童と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）を補助する制度を施行した。 		
平成25年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の就学のための援助については、教育振興と保護者の負担軽減の観点から、継続実施する。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	<p>【年間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要保護及び準要保護生徒就学援助費申請事務 ・要保護及び準要保護生徒就学援助費支払事務 ・特別支援教育就学奨励費申請事務 ・特別支援教育就学奨励費支払事務 ・特別支援学校児童生徒給食費補助金申請事務 ・特別支援学校児童生徒給食費補助金交付事務

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	11,412	11,536	11,063
(内特定財源)		千円	122	70	51
人工	職員	人工	0.3	0.3	0.4
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.1
	計	人工	0.4	0.4	0.5

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
要保護生徒就学援助費補助金	1	
特別支援教育就学奨励費補助金	50	
合計	51	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
公立中学校部活動指導 (10-3-2 (3) 8-1-4)	0	△700	県補助事業が平成24年度をもって廃止される。

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

就学のための環境の整備を図ることを目的とし、経済的理由により就学困難と認められる生徒の保護者に対して、通学用品費、新入学用品費、校外活動費、修学旅行費、給食費等の援助を行った。

障がいにより町立中学校に就学していない生徒のうち、県立特別支援学校に在籍する生徒への就学奨励として、町立中学校在籍児童と同様、当該県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）の補助を実施した。

■ 評価

義務教育に係る教育費負担の軽減を図るため、対象となった保護者に対し、就学援助を行った。

児童扶養手当の受給によるものが就学援助申請の主な事由である。また、生活困窮による申請も見受けられるようになっているのが現状である。しかし、給食費、学年費等の未納が生じたことによる学校での聞き取りにより、生活困窮が発覚する事例もある。

児童扶養手当を受給する世帯が年々増加し、今後も就学援助費支給認定児童生徒の増加が予想されるため、援助の制度を継続する必要がある。また、対象世帯の把握については、学期ごとに学校からの情報提供を依頼し、適切に対応する。

県立特別支援学校給食費の2分の1（保護者が負担すべき額の2分の1）を補助する制度については、計画どおり実施できた。次年度についても継続実施していく。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	11
事業名	社本育英事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	大口町名誉町民故社本鋭郎氏のご遺族からの寄付金を基金として昭和57年に発足し、基金運用から生ずる益金等により、大口町在住で町立中学校に在学し、高等学校等へ進学を希望する生徒の中から奨学金を交付し、将来社会の一線で活躍されることを目的とする。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学生の推薦及び決定 ・奨学金の交付 ・ ・ 		
現在における経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和58年度から平成24年度までの30年間で218名の奨学生が誕生し、それぞれ社会の一線で活躍している。 ・今後、更に故社本鋭郎氏のご遺族の想いに応えられるよう、事業を展開する必要がある。 		
平成25年度の目標又は改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学生については、学校や地域に寄与するところ、あるいは大口町民として、社会人として、それぞれの立場で活躍されているというところでは一定の成果がある。 ・故社本鋭郎氏のご遺族の想いに応えられるよう奨学生の推薦にあたり、事業を展開していく。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
4	奨学金授与式
1	運営理事会の開催通知
	奨学生の推薦依頼
3	奨学生の推薦
	運営理事会による奨学生の決定
	奨学生の決定通知及び奨学金授与式出席依頼
	【年間】
	・卒業見込み者（中学3年生）の進路指導と被推薦者の検討

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	300	350	300
(内特定財源)		千円	35	12	10
人工	職員	人工	0.3	0.3	0.4
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0.1
	計	人工	0.4	0.4	0.5

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
社本育英事業基金運用収入	10	社本育英事業基金利子等収入
合計	10	

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

- ・ 3年学級数を奨学生として推薦する(学級数×50,000円)。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

大口町社本育英事業運営理事会を平成25年3月25日に開催し、6名の奨学生を決定し、4月4日に授与式を執り行った。

故社本鋭郎氏のご遺族の想いに応えられるよう、更なる事業の展開について検討した。

■ 評価

故社本鋭郎氏のご遺志とご遺族のご厚意を受け、本事業が継続して実施されることは、少なからず奨学生の心に刻まれ、諸先輩方同様に彼らも本町の明日を担い、本町に寄与する人材となるものとする。本町が考える生涯学習基本構想の中で、若者たちに期待するもの、あるいは将来の彼らに期待するものを十分に理解し事業を進めるとともに、将来にわたって本町に寄与する人材の育成の一助となるよう努める必要がある。

故社本鋭郎氏のご遺族の想いに応え、また、地域スポーツの育英や発展のため、大口町社本育英事業基金の設置及び管理に関する条例施行規則を一部改正し、町内行政区対抗のスポーツ大会（町民体育祭、グランドゴルフ大会、ソフトボール大会）で優秀な成績を取めた行政区に対して、表彰することとした。

事業別経営計画書【A】

■基礎情報

所属名	生涯教育部 学校教育課	No.	12
事業名	明日の学校づくり施設整備事業		
総合計画の 体系	大分類	1	新しい時代を担う次世代を育む
	小分類	1	個性を伸ばし豊かな人間性を育む学校教育・生涯学習の推進
目的	児童が学習の場として一日の大半を過ごす学校施設を安全で安心な場所とするため、整備する。		
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・教育財産の取得、管理、処分 ・学校の設置、廃止 ・学校施設整備 ・教具、その他施設整備 		
現在における 経過又は課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度は、南小学校既設校舎等解体工事、南小学校新築工事（第3工区）、（第4工区）を実施し、全ての整備工事が完了した。 ・平成25年2月末竣工まで、児童、周辺地域への安全には十分配慮し、また、学校運営への影響を少しでも軽減し工事を実施した。 		
平成25年度の 目標又は 改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模工事は実施しないが、北小学校体育館、西小学校校舎・体育館、大口中学校体育館については、今後、老朽度の経過観察をし、将来的な大規模改修又は建替えについて検討する必要がある。 		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的な大規模改修又は建替えの時期、方法などについて検討する。 ・ 					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標
大口南小学校建設	70	70	20			

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	1,943,783	459,464	0
(内特定財源)		千円	388,985	29,046	0
人工	職員	人工	0.8	0.8	0
	臨時職員	人工	0.1	0.1	0
	計	人工	0.9	0.9	0

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
委託料	0	△15,742	南小学校新築工事(第3工区)、(第4工区) 監理委託業務 南小学校樹木仮植地維持管理委託業務
工事請負費	0	△443,369	南小学校新築工事(第3工区)、(第4工区)

■特記事項

--

■ 目標又は改善策に対する取組内容

現施設の維持修繕に務めた。

■ 評価

非構造部材の耐震化工事については、現施設の耐用年数等考慮して計画する必要がある。